

帆檣成林

—はんしょうせいりん—

新潟市歴史博物館
博物館ニュース
vol.22

「帆檣成林」とは？

帆柱が柱のように多く立つ様子を表した語。
人が多く出入りする活気ある「みなと」を
イメージしました。

CONTENTS

特集1「新潟島は宝島!? 歴史的建造物の
魅力再発見!」の展開 P.2~3

特集2「新潟美人」展によせて P.4

常設展示室から 低湿地に暮らす技術(ジオラマとロッカー展示) P.5

おすすめの一冊 イザベラ・バード紀行「日本奥地紀行」の謎を読む P.5

みなとびあ 研究notes 蒲原の揚水具 P.6

館長日記 「歴史に学ぶ」ことの難しさ P.7

収蔵資料紹介 沼垂浜懸積出入検分絵図 P.7

博物館を支えるモノ・もの テンパコ P.8



例年4月中旬ごろは、博物館敷地のサクラが花開き、多くの方が花見に訪れます。

新潟市歴史博物館
博物館ニュース

帆檣成林

Vol.22

【たいけんのひろばプログラム】 楽しみながら、遊びながら、昔のことを学びます。

日時	タイトル	内容	申し込み・対象・参加費
5月1日(日)~4日(水)祝 14:00~15:00	日光写真であそぼう	お日さまの力で面白い写真をつくろう! (天候によっては中止になることもあります)	不要/無料
5月5日(木)祝 14:00~16:00	縄文コースターをつくろう	縄文などの文様をつけたオリジナルのコースターを 粘土でつくって焼きます。	不要/無料
5月15日(日)祝 10:00~16:00	つながろうプロジェクト たいけんのひろばであそぼう!	凧づくりや、その他のいろんなプログラムをおこないま す。いろんなプログラムを楽しもう!	不要/無料
5月21日(土)・22日(日)祝 14:00~15:00	トンボ玉をつくろう	ガラスを溶かしてトンボ玉をつくります。	必要(5/13必着)/100円 小学生以上10名(各日)
5月29日(日)祝 14:00~15:00	ご先祖さまをさがせ!	常設展示室の中を探検して、展示室にいる人を探そう。 どこにいるのか、展示室の中をよく見てみよう。	不要/無料
6月5日(日)祝 14:00~15:30	“新潟美人”展関連プログラム 針穴カメラに写ってみよう	ピンホールカメラでポートレートを撮影してみよう。 “新潟美人”のように写れるかな?	必要(5/27必着)/100円 小中学生20名
6月11日(土)・12日(日)祝 14:00~15:30	ワラから絵手紙を作って描こう	ワラからハガキをつくって、絵手紙を書きましょう。 できた絵手紙は誰に出しましょうか?	必要(6/3必着)/100円 小学生以上15名(各日)
6月19日(日)祝 14:00~15:00	地名で遊ぼう! インディアンポーカー	新潟のむかしの地名で勝負するカードゲームです。 身近な地名は出てくるかな?	不要/無料 小学生以上
7月3日(日)祝 14:00~15:00	布をおってみよう	かんたんな織り機をつくって、裂き織りのコースター をつくります。	必要(6/24必着)/無料 小学生以上20名
7月9日(土)祝 14:00~15:00	草花あそび	身近な草花を使った遊びや飾りをつくってあそぼう!	不要/無料

お申込みは、電子メール・往復はがきで当館まで。ㄇ切は必着です。プログラムは予定となっています。詳細は、当館までお問い合わせください。

みなとびあからのお知らせ 6月20日(月)~27日(月)は館内くん蒸のため休館いたします。

現在開催中 企画展 “新潟美人”展

近代のメディアの発達と、大衆化の過程で、「新潟美人」は、どのように描写されてきたのか。イメージ形成の歴史を約150点の資料でたどります。

【会期】2011年4月23日(土)~6月19日(日)

【観覧料】	個人	団体	【休館日】
一般	500円	400円	4月25日(月)、5月6日(金)、 9日(月)、16日(月)、 23日(月)、30日(月)、 6月6日(月)、13日(月)
大学・高校生	300円	240円	
中学・小学生	200円	160円	

※中学・小学生は土日祝日、無料
※企画展示観覧券で常設展示もご覧いただけます。

展示解説会 毎週日曜日 13:30~
申し込み不要(企画展観覧券が必要です)
時間までに企画展示室へお集まりください。

関連イベント 無声映画上映会—活動弁士語り

新潟市出身の女優 川田芳子の主演作品を2本上映します。(約90分)
【日時】5月29日(日) 14:00~

①「母」1929年作品
②「明け行く空」1929年作品
弁士：斎藤裕子(活動弁士)
会場：博物館本館2階
ミュージアムシアター
入場料：500円

申し込み：往復はがきに①氏名、②住所、③連絡先電話番号を記入して博物館「上映会」係まで
応募締切：5月20日(金)必着
定員：100名(※申込多数の場合は抽選します)

博物館講座 当館学芸員が調査・研究をすすめているテーマを、
毎月第4日曜日にお話しします。
時間:13:30~15:00 会場:本館2階セミナー室
申込み:当日受付、先着50人 資料代:100円

- 5月の講座:5月22日(日)
蒲原平野の織物生産と衣生活 講師:藍野 かおり
- 6月の講座:6月19日(日) ※6月のみ第3日曜日開催
堀直寄の時代と新潟—湊町と村の形成過程 講師:長谷川 伸
- 7月の講座:7月24日(日)
蒲原平野の用水慣行 講師:森 行人

次回企画展 「発掘された日本列島2011」展
2010年に全国的に注目された遺跡の発掘成果を紹介。あわせて新潟市内の主な遺跡も展示紹介します。

【会期】2011年8月9日(火)~9月11日(日)
【休館日】8月22日(月)、29日(月)、9月5日(月)

【観覧料】	個人	団体	※中学・小学生は 土日祝日、無料
一般	600円	480円	
大学・高校生	400円	320円	※企画展示観覧券 で常設展示もご 覧いただけます。
中学・小学生	200円	160円	

博物館を支えるモノ・もの テンパコ

みなとびあの裏方の道具としてなくてはならないものの1つがテンパコというプラスチックコンテナです。この中に史料や博物館で使う諸々の道具などを入れて運搬したり、それらを収納・保管したりするのに使われます。特に展示会の始まる直前は、たくさんのテンパコが収蔵庫から展示室へと運ばれます。当館では縦・横の寸法を1つに統一したテンパコを用意しています。積み重ねることができて便利ですし、収納スペースも節約できます。ただし、テンパコの中に入るモノの高さは一律ではないので、4種の深さのテンパコを用いています。



編集後記 このたびの東日本大震災で被害にあわれた皆様へ心よりお見舞いを申し上げます。当館にお越しいただき、少しでも心安らぐことができたら心掛けながらお待ちしております。さて、「帆檣成林」22号はいかがでしたでしょうか。今年は例年に比べて桜の訪れが遅いようですが、現在当館では「新潟美人」展が開催されており、多くの人の目をひいた彼女たちの美しさがみなとびあに花を添えています。桜の季節は短いですが、企画展は6月19日まで行われていますので、ぜひ足をお運びください。(並木)

お問い合わせ・申込みは博物館まで...

新潟市歴史博物館みなとびあ
住所:〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10
TEL:025-225-6111 E-MAIL:museum@nchm.jp
休館日:毎週月曜日、祝日の翌日 開館時間:9:30~18:00



帆檣成林「はんしょうせいりん」第22号
編集発行/新潟市歴史博物館 〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10
印刷/株式会社博進堂

「新潟島は宝島!?」歴史の建造物の魅力再発見!」の展開

小林 隆幸

活動の発端

平成二十二年一月二十四日に、新潟市まちなか再生本部による「まちなか再生フォーラム」が開催され、再生本部アドバイザーで建築家の隈研吾氏が「都市再生の姿」担うべき役割と機能」と題した基調講演を行いました。そこで同氏は都市再生のキーワードとして、①歴史・伝統の再発見、②川や海、丘など自然や地形を生かす、③箱物などのハードからソフトへの転換の三つを強調しました。つまり、同氏は歴史・伝統の再発見がこれからの都市再生にとって有効であることを示したのです。

新潟市の中心部である通称「新潟島」は、かつて湊町として繁栄し、明治以降、新潟県内における近代化の先駆けとなった地域です。そして今でも近代新潟の歴史や文化を物語る建造物が数多く存在します。みなとびあかの敷地にも旧新潟税関庁舎や旧第四銀行住吉町支店など歴史的建造物があります。そうした建物の価値や魅力に多くの市民が気づき理解されれば、歴史的建造物は誰もが認める地域の宝としてますます光を放ち、そこに暮らす人々の心の糧ともなるのではないのでしょうか。そして、隈氏の

指摘にあったように都市再生へもつながっていくのではないのでしょうか。そうした思いからこの活動が始まりました。

文化庁支援事業の採択を得る

文化庁では、美術館・博物館が行う事業に対する支援を行っています。特に今では経済環境の悪化や指定管理者制度の導入など、館を取り巻く環境も変化していることから、文化庁の支援目的は、社会の変化に対応して館の事業の方向性を変えていくための基盤整備を図ることに変化してきました。そして、地域連携の強化、地域文化資源の整備活用、ミュージアム支援地域人材育成、国際交流拠点形成に関する事業が、その支援対象になっていきます。これを受け、当館でも地域連携の強化、地域文化資源の整備活用を主な目的に、活動のエリアを館外へ広げた事業の展開を図るため、文化庁平成二十二年度美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業に申請しました。そして、その採択を得て、歴史的建造物を一般公開している施設と協力し合い、市民自らが地域の宝である歴史的建造物の魅力を探る活動を展開しました。

活動の展開

現存する歴史的建造物を地域の宝と見立て、事業名を「新潟島は宝島!? 歴史的建造物の魅力再発見!」と名付けて市民参加を募りました。

まず、活動の皮切りとして、七月三十一日に専門家による講演会を開催しました。講師は長岡造形大学教授の平山育男氏と新潟大学准教授の岡崎篤行氏の二名です。平山氏からは「新潟の近代建築を造った人々」との題で、新潟の近代建築の建設に貢献した大倉喜八郎や内山熊八郎、大友弘、清水組、長谷川龍雄等の功績やエピソードについてお話しいただきました。また、岡崎氏からは「歴史的建造物を活かしたまちづくり」と題した講演で、新潟が川湊であることの重要性や花街の現存状況においては他都市より優位であるなどの指摘をいただきました。

講演会によって新潟の歴史的建造物についての知識と問題意識を高めたうえで、八月二十八日・九月四日・九月二十五日には、それぞれ下町エリア・西大畑エリア・白山エリアの三つにエリア分けした建物の現地見学を行いました。数多く残されている歴史的建造物の



建物見学会

さらに、これらの成果をまとめるにあたっては、見学会参加者によるワークショップを開催し、先述の記入シートを持ち寄りて内容を集約しました。そのうえで参加者の中から代表者を選び、その方々を中心に最終的にまとめ上げました。



ワークショップ

アの建造物について成果報告をしていたきました。大雪で悪天候の中、八十二人が会場に駆け付けてくれました。

今回の活動では、建物の価値や魅力を探し、その成果を取りまとめて発表するまでの一連の作業を市民の参加者を実施していただきました。それによって、ただ建物の価値や魅力を知るだけでなく、それをほかの人に発信できるようになることを目標にしたのです。ほかの人に伝えられるようになれば、それは活きた知識になることでしょうか。また、伝える人ができれば、新潟の魅力が語れる人材が生まれたとも言えるでしょう。これまでの一連の作業には、そうした期待が込められています。そしてもう一つの期待が、活動に参加できなかった市民に対しての効果です。活動に直接参加しなかった市民も、特に専門家ではない、自



事業報告会

期待される活動の効果

今後期待される活動の効果をまとめると次の四点があげられます。

① 歴史的建造物の価値や魅力が市民に広く深く認知されることにより、建造物を地域の歴史・文化・観光資



事業報告書

分たちと同じ地域に暮らす様々な価値観をもつ人たちが見つけた価値や魅力であれば、活動の成果に共感しやすく、同じ目線で活動の追体験ができるのではないのでしょうか。

こうした活動の経緯や成果は、「新潟島は宝島!? 歴史的建造物の魅力再発見!」の冊子にまとめました。この冊子は事業報告書であり、かつ、ここで取り上げた十一の歴史的建造物を紹介するガイドブックでもあります。執筆には報告会で発表した参加者代表三名のほか、金子政子さん、武内貞夫さんの二名が関わってくれました。この冊子は関係者機関に配布し、在庫がある限り希望者に無料で頒布しています。この冊子を通じて、これまで知っているようで気付かなかった歴史的建造物の魅力を、多くの方々に感じとっていただきたいと思っています。

源として定着させ、その活用が促進できる。

② 今回の活動は歴史的建造物を公開している各施設と市民の協力に基づいており、これを機に、施設同士また施設と市民との新たな連携が期待できる。

③ 参加した市民、活動の成果を共有した市民の中から、歴史や文化をはじめ地域の魅力を発信する人材が生まれる。

④ これをきっかけに、さらに多くの建物に魅力発見の視線が広がっていくことが期待される。

なお、本事業で連携した施設は当館のほか次の通りです。新津記念館、北方文化博物館新潟分館、新潟県政記念館、新潟大学旭町学術資料展示館、砂丘館、燕喜館、安吾 風の館。また活動に際しては、市内の歴史的建造物の管理・運営に携わる新潟市歴史文化課および文化政策課の協力を得ました。そして活動には、事業に賛同してくれた多くの市民をはじめ、旧齋藤家別邸の会、萬代橋ファン倶楽部、新潟大学旭町学術資料展示館友の会、新潟市歴史博物館ボランティアの方々も参加してくれました。

最後に、多くの方々のご協力を得て本事業が実施できましたこと、あらためてお礼申し上げます。
(こばやし たかゆき 学芸員)

“新潟美人”展によせて

伊東 祐之

昭和五(一九三〇)年「日本代表美人

全国三百新聞社選」というグラフィックが発売されました。これは、日本電報通信社が全国の三〇〇の新聞社に美人を推薦してもらい、その写真を画家伊東深水や舞踊家石井漢、小説家菊池寛、俳優尾上梅幸らが審査する美人コンテストを行い、その結果を出版したものです。「良家の令嬢も職業婦人もあり、従つて各人の生活態度から生れる美も千差万別の趣きを見せたところに本社計画の面白さがある。」と自賛しています。特選十人の筆頭を飾るのは東京市立第一高女研究科在学中の女性です。この特選十人の中に新潟毎日新聞社が推薦した新潟市の梅沢稲千代がいます。ほかに新潟市から推薦されたのは、新潟新聞社の皆川幸子、新潟時事新聞社の真柄政枝、新潟民報社の村上桃枝です。この四人は芸妓です。他の道府県の新聞社は、働く女性やスポーツ選手、学生なども推薦していますが、新潟では美人といえば芸妓だったのでしょう。新潟新聞社では推薦する美人を読者投票で選んでいます。その投票で名の上がった女性たちは、流行のカフェーやビアホールの女性もいますが、多くは芸妓です。ちなみに特選十人に選ばれた梅沢稲千代は、新潟新聞社の投票では十四位でした。新潟では「美人」は芸妓を指す言葉として長く使われてきた

と言つていいでしょう。

湊町新潟は、江戸時代から日本海を行く廻船の寄港地でした。新潟町は富もたらす廻船を大切に思い、船頭をもてなしました。その役割の一部を担っていたのは新潟の女性たちでした。文政二(一八一九)年版の「新潟細見」というガイドブックには、遊女を置く店一七六軒、遊女六〇九人が記されています。天保二(一八三一)年に江戸から松島、越後、信濃、上野をめぐる旅をした絵師長谷川雪旦は、その情景を「北国一覽写」に描いています。新潟町では揚げ屋での宴会の様子をスケッチし、汐汲を踊るかむろや遊女を特にピクアップして情報を加えています。

文政十一(一八二八)年から東北・越後を旅回りの江戸の芸人繁太夫は、新潟で「女郎芸者は色白く美敷」「所の子水にあひて誠に漣通る様に暉麗也」と日記に書いています。彼がその土地の女を一般的に「美しい」と日記中に記したのは、唯一新潟のみです。嘉永二(一八四九)年に新潟湊に入船した若狭の船頭は「これや此 親おも子をもわすらるる 新潟女郎のこへとすがたと」と歌を遺しています。慶応三(一八六七)年に新潟で登楼した南部藩士は遊女・芸者を評して「うるわしき女ばかりなり」と道中記に記しています。全国の人々が新潟の遊女・芸者は美人と

いう評判を知って新潟を訪れ、実際に見聞して評判を確認し、またその情報広がっていくのでしょう。

明治以降、遊女(娼妓)と芸者(芸妓)は区別され、遊廓が北の砂丘地に作られて古町には芸妓が残ります。評判の新潟芸妓の芸はますます磨かれ、新潟を訪れる人々を驚嘆させます。東京で名をあげる芸妓や有名人の寵愛を受ける芸妓も生まれます。一方では芸妓を座敷に呼ぶことのできない人々も、置屋や料亭を往き来する芸妓を目にし、小路に流れる芸妓のさらう音曲を聞き、劇場で開催されるおさらい会に詰めかけます。新聞や写真が発達するにつれて、新聞や雑誌には芸妓の恋愛や落籍、妊娠、座敷での失敗などの情報や醜聞

が掲載されていました。新潟を紹介する本には芸妓の写真が載り、絵葉書で顔や容姿が売り出されます。戦時下には様々な「新潟美人」と題された絵葉書セットが慰問袋に詰められて戦地へ送られます。

近代を通じて、新潟の芸妓は、芸能・文化を担うタレントとして、「新潟情緒」を体現する「新潟美人」と位置づけられていきます。そして、一方では身近なアイドルとして「新潟美人」と呼ばれ、消費されていたのです。「新潟美人」は、新潟の歴史に規定され、様々な意味で新潟のシンボルとしての役割を負ってきた存在だったといえるでしょう。

(いとう すけゆき 副館長)



昭和5年に日本電報通信社が企画した「日本代表美人」で特選に選ばれた新潟の芸妓、梅沢稲千代。(「日本代表美人 全国三百新聞社選」日本電報通信社発行、昭和5(1930)年)

低湿地に暮らす技術 (ジオラマとロッカー展示)

常設展示室から

当館の常設展示室には、漏べりの風景を再現した実物大のジオラマがあります。ジオラマという展示手法は歴史系・自然系を問わず多くの博物館で採用されていますが、歴史系の博物館で人の手がかかっている低湿地の自然を再現しているジオラマは珍しいのではないかと思います。



このジオラマは、展示ストーリーの中で二つの役割を担っています。一つ目は開墾される前の蒲原平野の原風景を表現する役割です。江戸時代はじめの新田開発以来、水はけが悪いヤチや濁があちこちに点在していることは、新潟市域の農村部にとって大きな課題でした。20世紀中

頃に土地改良事業が進展したことによって、こういった風景がひろがっている地域は減少しましたが、福島潟、鳥屋野潟、佐潟などにいけば、四季折々の潟の風景をみることができます。潟の水が広がっている景観は市域の平野部の原風景であるといえます。

二つ目の役割は、ある程度耕地を開墾し家数が増えた段階の農村において、狩猟や漁労、採集の舞台であった潟を紹介することです。ヒシ、マコモ(新潟ではガツボなどの名称で呼ばれる)、ヨシ(アシ)などの植物は、衣食住のいろいろな場面で利用されていました。魚や鳥などの生き物は自家の食糧となるほか、現金収入を得る目的でも盛んに獲られていました。これらの動植

物は、単純に暮らしの素材として利用されていただけでなく、採集や漁労などの共同労働にはレクリエーション的な楽しみもあることから、村の暮らしをいどる役割も担っていました。

また、このジオラマの各要素と対応する生活の技術を、六つの分野にわけ、それぞれにロッカー風の扉を設けて、動植物の特徴と、その主な利用方法について紹介しています。ジオラマとロッカー展示コーナーを行き来して見比べてみると、いままで知らなかったいろいろな暮らしの知恵や工夫が発見できるのではないでしょう。

岩野邦康(いわの くにやす 学芸員)

おすすめの1冊

イザベラ・バード紀行 日本奥地紀行の謎を読む

本誌十四号にて、「イザベラ・バードの日本紀行」講談社文庫 上下巻をご紹介しました。そこには、イザベラ・バードが見た日本の風土や、彼女が出会った異文化・日本がいきいきと描かれています。このイギリス人女性の紀行文は明治初期の東北日本の姿を伝えるものとして絶賛されました。

しかし、読み進めると、不明な旅程や、現代の私たちには想像しづらい記述がでてきます。本書は、バードの訪れた地を繋ぎ合わせて、「日本奥地紀行」の行間を読み解くことを目的に書かれました。筆者は、バードの足取りを洗い直し、滞在した各地での時代背景を調査し、「なぜバードがそのように表現したのか」という謎を解き明かすことで、その内容を明らかにしようとして試みています。

本書をあわせて読むことで、バードが見た日本、そして、バードを受け入れた「日本の奥地の人々」の姿がより明確にイメージできると思います。より深くバードの旅を知りたい人におすすめです。

(監野かおり 学芸員)



伊藤孝博(著) 2010年8月 無明舎出版

